

第 17 回資源管理手法検討部会の結果について

令和 5 年 11 月 2 日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和 5 年 8 月 7 日（月）に開催された第 17 回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

1. ソウハチ北海道北部系群

● 資源評価について

- 調査船調査の充実や沿岸漁業のデータも用いた解析、漁業実態を踏まえた評価など、資源評価の精度向上が必要。
- 1 C 系の資源評価手法や、その妥当性のほか、本資源の資源評価で算定された A B C は、雌雄や漁獲可能サイズ以上を全て合わせた資源量に基づいていること、これまでの自主的な資源の取組の継続が前提となっていること等、資源評価の内容についても丁寧に説明すべき。
- 仮に過去に遡って A B C を算出した場合、実際の漁獲実績と大きな差があると思われるところ（例：令和 3 年に資源評価を行ったと仮定して令和 4 年の A B C を算出し、令和 4 年の漁獲実績と比較）、具体的な数値について示すとともに、差が生じる背景について整理すべき。

● 資源管理について

- 魚価が下落している現状等を踏まえ、漁獲量の最大化を目指すのではなく、資源の利用実態や、漁業経営、加工・流通状況を考慮した目標管理基準値を設定してほしい。
- 漁獲実績に基づく配分ではなく、関係者による別途の合意に基づく配分や、総量での一括管理を検討すべき。
- 複数魚種が一緒に漁獲される実態等を踏まえ、柔軟な管理手法（例：配分をせず、系群全体での一括管理やソウハチ・マガレイの一括管理等）を含む混獲管理の内容について、具体的に提示してほしい。
- ステップアップ方式による T A C 管理にあたっては、新たな資源評価手法が用いられていることも踏まえ、具体的な課題を抽出した上で、当該課題を踏まえた期間を設定し、課題を解消した上で次のステップに進むべき。
- （資源評価の将来予測を基にした）幅を持った T A C 設定や、T A C を複数年固定とするなど、柔軟な漁獲シナリオについて具体的な内容を検討し、リスク評価の結果を含めて示すべき。
- サイズ規制を基本とした管理協定に基づく管理を継続すべき。

● S H会合で特に説明すべき重要事項について

- これまでの 30 年間にわたる自主的な資源管理の取組に加えて、資源の利用実態、魚価、流通の変化等、現場の漁業の状態を説明すべき。
- これまでの資源管理の取組により資源状況が良好であり、現状の漁獲圧で漁獲しても目標管理基準値を 100%達成すると予測されているなか、また、当該資源の漁獲量が我が国の総漁獲量に占める割合が極めて少ない中で、数量管理を導入する必要性を説明してほしい。
- 数量管理に取り組む意義について、漁業者だけではなく、加工・流通業者も含めた関係者が理解できる説明が必要。

2. マガレイ北海道北部系群

● 漁獲等報告の収集について

- 漁獲報告の体制は基本的に整っているが、一部地域での雑魚（その他）として計上されている漁獲量を把握する体制の構築が必要。

● 資源評価について

- 調査船調査の充実や沿岸漁業のデータも用いた解析、漁業実態を踏まえた評価、未集計の漁獲量を含めた評価など、資源評価の精度向上が必要
- 1 C系の資源評価手法や、その妥当性のほか、本資源評価において、資源量推定の幅・年変動がソウハチよりも広くなる仕組み、これまでの自主的な資源の取組の継続が前提となっていること等、資源評価の内容についても丁寧に説明すべき。
- 仮に過去に遡って A B C を算出した場合、実際の漁獲実績と大きな差があると思われるところ（例：令和 3 年に資源評価を行ったと仮定して令和 4 年の A B C を算出し、令和 4 年の漁獲実績と比較）、その具体的な数値について示すとともに、差が生じる背景について整理すべき。

● 資源管理について

- 魚価が下落している現状等を踏まえ、漁獲量の最大化を目指すのではなく、資源の利用実態や、漁業経営、加工・流通状況を考慮した目標管理基準値を設定してほしい。
- 漁獲実績に基づく配分ではなく、関係者による別途の合意に基づく配分や、総量での一括管理を検討すべき。
- 複数魚種が一緒に漁獲される実態等を踏まえ、柔軟な管理手法（例：配分をせず、系群全体での一括管理やソウハチ・マガレイの一括管理等）を含む混獲管理の内容について、具体的に提示してほしい。
- ステップアップ方式による T A C 管理にあたっては、新たな資源評価手法が用いられていることも踏まえ、具体的な課題を抽出した上で、当該課題を踏まえた期間を設定し、課題を解消した上で次のステップに進むべき。
- （資源評価の将来予測を基にした）幅を持った T A C 設定や、T A C を複数年固定とするなど、柔軟な漁獲シナリオについて具体的な内容を検討し、リスク評価の結果を含めて示すべき

- （ソウハチ北海道北部系群に比べて）資源量の将来予測の年変動が大きいことから、当該資源評価の不確実性を踏まえ、 β を低く設定するのではなく、柔軟な管理の内容について検討すべき。
- サイズ規制を基本とした管理協定に基づく管理を継続すべき。
- 遊漁の管理の方向性について示すべき。

● **S H会合で特に説明すべき重要事項について**

- これまでの30年間にわたる自主的な資源管理の取組に加えて、資源の利用実態、魚価、流通の変化等、現場の漁業の状態を説明すべき。
- これまでの資源管理の取り組みにより資源状況が良好であり、現状の漁獲圧で漁獲しても目標管理基準値を100%近い確率で達成すると予測されているなか、また、当該資源の漁獲量が我が国の総漁獲量に占める割合が極めて少ない中で、数量管理を導入する必要性を説明してほしい。
- 数量管理に取り組む意義について、漁業者だけではなく、加工・流通業者も含めた関係者が理解できる説明が必要。

（以 上）